

平均路線価が下落

2年ぶりコロナ影響か

広島国税局は1日、県内の路線価を発表した。標準宅地4101地点の平均変動率はマイナス0・1%で、2年ぶりの下落となった。県内最高値は23年連続で、下関市竹崎町4丁目のJR下関駅東口駅前広場。価格は20万円で、8年ぶりに下落に転じた。

※1平方メートルあたりの評価額。単位は万円。▼はマイナス

順位	税務署	所在地	2021年	2020年	変動率(%)
1	下関	下関市竹崎町4丁目 下関駅東口駅前広場	20.0	21.0	▼4.8
2	山口	山口市小郡黄金町 県道山口阿知須宇部線通り	14.5	14.5	0.0
3	岩国	岩国市麻里布町2丁目 本通商店街通り	12.0	12.0	0.0
4	徳山	周南市銀座1丁目 徳山駅北口駅前広場	11.0	11.0	0.0
5	防府	防府市中央町 市道大林寺協和線通り	10.5	10.5	0.0
6	宇部	宇部市常盤町1丁目 常盤通り	6.7	6.8	▼1.5
7	光	光市浅江3丁目 国道188号通り	5.4	5.4	0.0
8	柳井	柳井市南町3丁目 国道188号通り	4.7	4.8	▼2.1
9	萩	萩市土原 国道191号通り	4.2	4.4	▼4.5
10	厚狭	山陽小野田市西高泊 国道190号通り	3.9	3.9	0.0
11	長門	長門市東深川 市道駅南中央線通り	2.9	3.0	▼3.3

県内税務署別の最高路線価

2年ぶりの下落について、下関市の不動産鑑定士、稲田豊さんは「コロナ禍で商業地で客足と人流が減ったことや、若年層の雇用が不安定になり住宅購入に二の足を踏んでいることが影響している」とみる。11税務署ごとの最高路線価は、下関、宇部、柳井、萩、長門の5署が前年比で下落。横ばいが山口、岩国、徳山、防府、光、厚狭の6署だった。

一方、標準宅地4101地点(前年4106地点)のうち、627地点(同811地点)が上昇。上昇地点は、JR新下関駅(下関市)周辺やJR新山口駅(山口市)北側、JR徳山駅(周南市)北側などで多かった。「利便性が良い場所を持ちこたえている。下がる地域との二極化はますます拡大するだろう」と稲田さんはみる。

山口市では、JR新山口駅前にある山口市小郡黄金町の県道山口阿知須宇部線通りがトップで、14万5千円。全国の県庁所在地の中では前年同様43位だった。

路線価は、主要道路に面した1平方メートルあたりの評価額(1月1日時点)で、相続税や贈与税を計算する基準となる。
(高橋豪)